

〈要約〉

異形の経営者 かわみなみ とよさく 川南 豊作

Heteromorphic manager Toyosaku Kawaminami

岩 武 光 宏
Mitsuhiro Iwatake

現代史の中には、いまだに評価が定まっていない歴史的な事件は少なくない。昭和史の謎といわれる「三無事件」もその1つである。同事件のように全貌がはっきりしないままに、ある種のタブー性を醸し出すようになったものについての歴史的な評価は、ことさら困難なことである。三無事件とは、1961（昭和36）年12月に発覚したクーデター未遂事件である。「三無」とは、無税・無失業・無戦争の3つの「無」に由来していた。具体的には、①無税 - 官公庁の大幅人員削減による財政収縮と公社公団の民営化、地方分権および地方活性化を図り、10年後に無税化する、②無失業 - 大規模な公共事業を実施することで失業者を吸収する、③無戦争 - ミサイルや宇宙兵器など高度な防衛技術の開発による外国からの侵略の阻止、戦争の無い社会を実現する。以上の3つを理想として掲げていた。本稿では、首謀者であった川南豊作の人物像と足跡を概観してみたい。くわえて、川南が地域社会で突出した経営者であったという史実と、その特異性を浮き彫りにしたい。